

大阪医科大学  
歴史資料館  
(高槻市)

みゅ〜  
ザ・見遊じあむ

47



イスラム様式の洒落た建物



昔の面影を残す階段教室

「先人の心を師とすべし」  
志賀潔が贈った揮毫を展示

々の目を惹きつけました。竣工当時に「別館」と称されていた建物が唯一残っており、高槻市で初めての国の有形文化財として登録され、「歴史資料館」として一般公開されています。

資料館には、大学の創立当初に掲げられていた講義風景を描いたレリーフ、大学に初めて導入された時の電子顕微鏡など往年の医療機器や、大学の歴史を紹介

するパネルなどを展示。赤痢菌を発見したことで有名な志賀潔博士が当時の医学生に贈った揮毫が扁額で飾られており、「先人の跡を師とせず、先人の心を師とすべし」(業績に目を注ぐのでなく、赤痢で苦しむ人々をなくそうという気持ちで仕事をした心を大切にす

ミュージアムメモ

▶所在地/高槻市大学町2-7▶交通/阪急京都線「高槻市」駅下車徒歩3分▶開館時間午前9時30分~午後4時(入館は閉館の30分前まで)▶休館日/土日祝祭日、大学の休業期間▶入館料/無料(入館を希望する場合は事前に電話連絡を)▶連絡先・お問い合わせ/電話072-684-6738

「セントアンナの奇跡」



戦場での実話をもとに  
兵士の人間性を描く

運命より強くこの子を愛する...  
『ドゥ・ザ・ライト・シンドグ』『マルコムX』などでアメリカ黒人社会の光と影を描き続けているスパイク・リー監督が新境地を開いた作品で

ニューヨークの郵便局で働く定年間のヘクターは、ある日、窓口で切手を買いに来た男性をいきなり銃殺しました。ヘクターは前科や借金などもなく、精神状態も良好の実直な男でした。警察の自宅捜査によって、彼の部屋から長らく行方不明となっていたイタリアの貴重な彫像が発見されます。一向に犯行動機を口にしないヘクターが、やがて重い口を開きます。それは第二次世界大戦真っ只中の1944年、イタリアのトスカ

ナで起こった出来事でした。原作・脚本は、監督の叔父がかつて黒人のみで編成された部隊「バッファロー・ソルジャー」の一員であったジェームス・マクブライド。1944年8月12日、イタリアのトスカナでナチスが罪のない大勢のイタリア市民を殺害した「セントアンナの大虐殺」をもとに創り上げた物語です。かつて激しい攻防が行われた戦場や過酷な虐殺現場となったセントアンナ教会で撮影を行うこだわりもみせています。

このシネマ

ガレージ

大阪の戦跡を歩く

第46歩

「大阪府庁」  
(大阪市中央区)  
正面玄関にあった  
“菊の紋章”



築83年。日本最古の都道府県庁舎です

の近代建造物として有名なこの庁舎にも、戦争の暗い歴史があります。戦前は庁舎内に「特別高等警察」があり、本庁地下室には拷問に使った取調室の部屋が残っています。庁舎の正面玄関には天皇制をあらわす「菊の紋章」が掲げられていました。戦後、取り外された「紋章」は、その後行方不明になっています。

大阪府庁舎は1926年に建築家・平林金吾、岡本肇の設計により竣工。知事室がある現役の都道府県庁舎としては全国で一番古く、最近ではレトロな雰囲気が目立っており、テレビドラマのロケーションにも使われています。大正期

撰津河内和泉三國誌  
おおさか

47  
(岸和田市)

岸和田のだんじり祭  
市民の絆のシンボル  
300年の歴史と伝統を誇る

ご存じ、岸和田市で毎年秋に行われる伝統的な祭りです。だんじりを曳く祭りは各地で行われていますが、岸和田の祭りは全国各地でも知名度が高く、日本を代表する祭りの一つになっています。見どころは、曳き手が走り、スピードをあげただんじりが直角に向きを変える「やりまわし」。重さ4トンを超えるだんじりが勢いよく駆け回る迫力とスピードは爽快で、全国でもこれを上回る曳行はないといわれています。



「ソーリヤ!」の掛け声で一気に曲がります



夜は「灯入れ曳行」雅やかな光景です

だんじりは、綱を曳く青年団、旋回のきつかけをつくる前梃子、かじを取る後梃子、合図を後梃子に送る大工方が、それぞれ持ち場を受け持ち、息を合わせて、早く正確に、そして安全に「やりまわし」を行わなければなりません。だんじりの曳行を通して長年培われてきた、町の人々の絆や仲間意識が非常に強いのも岸和田の特徴です。

岸和田のだんじり祭は、江戸時代の元禄16年(1703年)、時の岸和田藩主・岡部長泰が京都伏見稲荷を城内三の丸に勧誘し、五穀豊穡と無病息災を祈願して行った稲荷祭りが始まりと言われています。300年以上の歴史と伝統を誇るだんじり祭。今年も9月20日(日)と10月11日(日)に本宮を迎えます。

箱根の山は天下の嶮

滝 廉太郎

今年8月24日は、日本の代表的な音楽家・滝廉太郎の生誕130年の日です。明治期に活躍した滝廉太郎は、「荒城の月」「花」「鳩ぼっぼ」「お正月」「雪やこんこ」などを作曲し、日本の四季や風景をテーマにした多くの作品を生み出しました。箱根の山は天下の嶮〜で始まる「箱根八里」は1901年に発行された「中学唱歌」に発表されたもの。箱根登山鉄道の発車メロディにも使われ、今も庶民に歌い継がれています。

いまも心に響く  
名詩・名歌・名語録

我が亡き後に  
洪水よ来たれ

ボンパドゥール夫人

フランスのルイ15世の公妾、ボンパドゥール夫人は権勢をほしいままにし、庶民から巻き上げた血税で栄華を極めていました。夫人は「我が亡き後に洪水よ来たれ!」と言い放ち「自分が生きている時にしわ寄せが来なければよい」としていました。その後ルイ16世の時代に、フランス革命という「大洪水」が起こります。この言葉はマルクスも引用し、目先の利潤追求に狂奔する資本主義の病理を表現する言葉にも使われています。